（C）日刊スポーツ新聞社

2014.7.23→2020.7.24

海のことなら 若大将に聞け

小躍りしたね…

加山雄三さんと東京オリンピックスポーツ

東京オリンピック特集

東京プラネッツ女組 シッティングバレー日本女子代表

波田 みか（14）

運命なのかもしれません。昨年4月にシッティングバレーに出会った。

県大会にも出場しました。小6の12月に骨肉腫と診断されましたが「骨肉腫って何？」と病名すら知りませんでした。手術では右膝部分を人工関節に替えました。お父さんのネット検索のおかげで、シッティングバレーの存在を知りました。一時退院の時、所属チームを見学して、足がない人もいるし、ネット（高さ1・05メートル）は低いし「これなら行ける!!」と直感しました。ただ、そんなに甘くはありませんでした。お尻を床についたまま、一般のバレーでは高校までが限界だったのもしれないけど、そんな私が今、日本代表…。自分もびっくりしています。日々の丸を背負う重圧もありますが、小1の時、地元埼玉（川越市）のスポーツ少年団でバレーを始めました。週4日バレー漬けの生活でいい、この1年で大きく変わります。一般のバレーでは高校までが限界だったのもしれないけど、そんな私が今、日本代表…。自分もびっくりしています。日々の丸を背負う重圧もありますが、毎日が本当に楽しいです。

2020年東京五輪へ 300人リレーコラム 31人目 頭字は北京本大会 自筆

自分の可能性や成長に期待しています

次回24日（水）箱根V2青学大・原監督のマラソン改革

◆五輪メダリスト80人 吉川美穂（よしかわ・ほのぎ）1980年ロサンゼルス大会射撃男子フリーピストル勝◆福岡県警警視代表（26歳）出場、58年世界王者のウマロフ（ソ連）と555点で並ぶ、シュートオフの末に惜敗したが、メダル獲得は日本射撃陣初の快挙となった◆レイアウト・藤塚 誠

海のことなら 若大将に聞け

…1964年と同じ 江の島が会場

加山雄三（78）は神奈川・湘南の海で育ち、2020年東京五輪セーリング会場となる江の島を誰よりも知り尽くす海の男。10代からボートをこぐ腕は、設計もできるほどの船好きとしても知られ、昨年末には日本セーリング連盟の応援団長に就任した。“生涯青春”を地でいく永遠の若大将に、前回東京五輪の思い出や4年後に寄せる期待、海の魅力などを語ってもらった。【松本久】

光輝丸で一番乗り

「20年五輪は、何よりも競技会場がこの島ということが非常に重要。そこで練習をすることで、波と風を知ることができるいいところ（順位）にいく、そう思うんですよ」

湘南の海を知り尽くす加山だからこそ確信を持って言える言葉だ。「地の利」を生かせるメリットがあると、セーリング日本チームへの期待を隠さなかった。

半世紀前、1964年（昭39）の前回東京五輪の競技会場だったのが江の島のヨットハーバーだった。実はそこに初入港したのが加山。じかも自ら設計した初代光進丸で、ただ開港は9月1日午前9時、前夜に進水式を済ませたばかりの光進丸に乗り込んだ加山船長は時を振り返った。

「網代港で夜明かしをしてね、逆算をして9時ちょうどに港に入ったんだ」

ボーッと汽笛を鳴らしながら、ヨットハーバー一番乗りをした。その日以降、数日は沖に船を止めたまま、そこから仕事に通っていた。

「だから、あそこでまた五輪をやると聞いて小躍りだね、『会場が江の島なのは』『当たり前じゃないか』みたいな気持ちもあるよ」

昨年末、日本セーリング連盟から応援団長就任の話が舞い込んで来た時に思った。

「やってはいけないか、みたいな感じですこくうれしかったな」

64年当時は、黒沢明監督の映画「赤ひげ」の撮影などで忙しく、直接会場に足を運ぶことができなかった。ただ、友人が逐一連絡をくれたという。

「全然だめだったにしろ、ベルが違うとか言ってね、悔しい、こっちの野郎！と思ったよ」

半世紀以上も前のことだが、昨日のことのように感情がわいてきて、思わず振り返った。根っからの負けず嫌いだ。

海にいれば幸せだ

4年後の決戦は、現在建設を進めているから、日本チームのリベンジの場になるかもしれないという。

「その前に船を完成させて、世界中の海を回ってくるから、VIPを招待して海の上から観覧するよ」

加山は、これまでに多くの船を自分の手でつくってきた。ポート第1号を製作したのは14歳。まだ中学生だった。19歳の時には、5カ月をかけてモーターボートを完成させた。同船で台風の中を鎌倉まで行った帰途に転覆。反転しボートが逆さまになっておぼれかけたこともあった。日本で最初にサーフボードを作った。波乗りは東京が発祥とされる。その後、1964年6月10日付の日刊スポーツに掲載された加山の写真は、当時27歳の時だ。

「海を友とした70年以上…。自然の怖さを身をもって知る加山ゆえに、マリンスポーツの魅力を聞くと「楽しさ」ではなく「怖さ」という言葉を最初に口にした。

「人生と同じで準備がすごく大切。冒険と無謀は違うから事前の準備はしっかりと。海は危険が伴う。まずは『怖い』という気持ちを学んでからが始めないとだめ」

加山の人生には、その延長上に「海にいれば幸せだ」の境地が待っていたという。マラソンの野球と通ってはしだの薄いヨット競技、その楽しみ方を聞くと、具体的なアドバイスが返ってきた。

「ヨットをやらないハムールが分からない。だから、解説や説明が付くテレビ中継を見るのは良いと思うよ」

生の迫力を味わいたい人には、浜辺から見たり、ボートを持っている知人と海の上から見るのも勧めた。

「ネット検索などで、事前にルールを少しでも分かると、面白さが全然違う。『分かる』ということが面白さにつながるから」

海とヨットをこよなく愛するだけに「ヨットを多くの人に分かって欲しいという気持ちは強い」と言い切る。だから、日本セーリング連盟の応援団長を引き受けたという。

五輪はスポーツの祭典であると同時に、日本の魅力を世界にアピールする絶好の機会でもある。

「自分は日本の戦前戦中も知っている。終戦直後は日本に等しいくらい大変で、努力を重ねてここまできた。日本を訪れた人たちに、伝統ある『おもてなし』の心を伝え、同時に最後の日本の努力、今の日本の頑張っている姿も学んでもらいたい。日本に来た観光客が何を獲得して帰るかがすごく重要。それがロコミで広がるから、日本でオリンピックをやらせて良かったと、そう思う人がたくさん出てくる予感がする。世界中の人たちは、日本のことを知っているようで実は知らない。日本をパブリシティーするチャンスだよ」

4年後、江の島に浮かぶ自作船から親技を見守る加山の姿があるはずだ。

「海・愛・絆」と東京五輪への メッセージを記す 加山雄三

セーリング◆アラカルト 五輪で銀1、銅1

◆セーリング 動力を用いず、帆の受ける風によって滑走する競技。日本セーリング連盟（JSAF）は「日本のヨットレースを統括する」団体で、国際セーリング連盟（ISAF）に加盟している。

◆最古の五輪競技 1896年の第1回アテネ大会から正式競技だったが、大戦不良で中止。実際に行われたのは、1900年のパリ大会から。艇種によって種目が分かれ、大会ごとに実施種目が変わる。

◆若者受け 08年北京大会から採用された男女のRS級は、いわゆるウインドサーフィン。マリンスポーツとしての人気の高まりで、五輪入りした。

◆男女混合 リオデジャネイロ大会で実施されるのは10種目。男女分かれた種目がある一方で、新たに採用されるナクラ17級は男女の区別なし。混合種目として実施される。

◆表彰台 日本は高くメダルに手が届くレベル。96年アトランタ大会では女子の重・木下組が銀メダル、04年アテネ大会では男子の関・轟組が銅メダルを獲得した。

08年8月、北京五輪セーリング男子RSX級の最終レースに出場した富沢慎（AP＝共同）

加山雄三と東京オリンピックスポーツ

海に浮かびるように荒磯で有名な茅ケ崎の家屋敷の商船大学生の影響で船の魅力にはまる

1964年（昭39）

第1号を製作 ポート

1961年（昭36）台風の日に波乗りをしておぼれかける 5歳（13歳）

モータボートを初めて製作／15歳

茅ケ崎遊泳大会で完泳 14歳（27歳）

船操縦士の免許取得／初代光進丸が進水 19歳（32歳）

2代目光進丸進水。長崎まで航海 22歳（45歳）「大型5級海技士航海科」の免許取得 23歳（46歳）

光進丸進水 24歳（47歳）

光進丸でサイパンなどへ2カ月の長期航海 34歳（57歳）

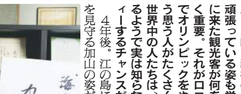
ハワイのヨットレースで総合3位参加 36歳（59歳）

東京湾帆船パレードに参加 70歳（93歳）

豪華客船「飛鳥」の名誉船員に就任

71年、光進丸の航海

手製のカヌーをこぐ▼



▶子どもの時（左）

まゆうきこの名 山雄三

県生まれ。父は建築士で、母は人形作家の桜菓子屋。東大法学部を卒業した60年に東宝入社。同年に「男対男」で映画デビュー。61年にスタートした映画「若大将シリーズ」が大ヒット。黒沢明、岡本喜八ら巨匠の作品にも多数出演。歌手としてもNHK紅白歌合戦に17回出場、07年に神奈川文化賞、11年に日本芸術選奨、14年に旭日小綬章。妻は元女優松本めぐみ。

20年東五輪まで300回超え大連載第81回

28日号砲！東京マラソン

ボランティアあれこれ

2月28日号砲の「東京マラソン」は今年で10年目を迎える。世界6大マラソンの1つ、約3万7000人のランナーが首都を走る日本最大級のスポーツイベントだ。それを支えているのが、約1万人の

ボランティアだ。大会全体で8万人のボランティアを必要とする2020年の東京五輪・パラリンピックに向けて、どんな準備が必要なのか。東京マラソンに関わる人に話を聞いた。

一気に5千人台に

東京五輪に向けて、東京マラソンのボランティアでは、「おもてなし」化が進んでいる。13年9月の東京五輪開催決定は、翌年2月の東京マラソンに影響を及ぼした。それ以前は、まで3000人程度だった海外ランナーが、一気に5000人台に増加した。東京マラソン財団ボランティアセンター長の山本悦子さんは、今年はまるで「しょうがない」という感じでした。と14年の大会を振り返る。

東京マラソン財団ボランティアセンター長の山本悦子さん

海外ランナーのためにおもてなし化

決定は、翌年2月の東京マラソンに影響を及ぼした。それ以前は、まで3000人程度だった海外ランナーが、一気に5000人台に増加した。東京マラソン財団ボランティアセンター長の山本悦子さん（43）は、今年はまるで「しょうがない」という感じでした。と14年の大会を振り返る。

ボランティアの数は、東京マラソンでは、東京オリンピックに向けて、ボランティアの育成、給水ゾーンの大会参加者を踏まえ、そこ区省を踏まえ、翌年は約3000人程度増えた約3000人増員する。そうした経験を踏まえ、そうした経験を踏まえ、そうした経験を踏まえ、